

「FSBレポ統計の日本分集計結果」の公表を開始

▼日本銀行は、一月二十七日に「FSBレポ統計の日本分集計結果」の公表を開始しました。

「レポ」とは、資金と証券を取引の相手方と交換し、一定期間後に返還する取引のことです。この統計は、金融危機時の教訓を踏まえた国際的な取り組みの一環として、金融機関から収集したわが国における個別のレポ取引のデータを、市場の透明性を一段と向上させるために、集計・公表するものです。

▼この統計では、従来の調査や統計では把握できなかった通貨別や取引相手の所在地別の情報などを、月次の頻度で公表しています。

▼レポ取引は、市場において活発な取引を行ううえで欠かすことのできない重要な機能を果たしています。日本銀行は、この統計の公表が、金融市場の機能

度や安定性の維持・向上に資することを期待しています。

詳細は日本銀行ホームページをご覧ください。



(注) FSB (Financial Stability Board: 金融安定理事会) は、主要二五カ国・地域の中央銀行等が参加し(二〇一九年末現在)、金融システムの脆弱性への対応や金融システムの安定を担う当局間の協力の促進に向けた活動などを行っています。

主要中央銀行による中央銀行デジタル通貨の活用可能性を評価するためのグループの設立

▼カナダ銀行、イングランド銀行、日本銀行、欧州中央銀行、スウェーデン・リクスバンク、スイス国民銀行、国際決済銀行(BIS)は、それぞれの国・地域において中央銀行デジタル通貨の活用可能性の評価に関する知見を共有するために、グループを一月に設立しました。

▼このグループは、中央銀行デジタル通貨の活用のあり方、クロスボーダー(国境をまたぐ)の相互運用性を含む経済面、機

能面、技術面での設計の選択肢を評価するとともに、先端的な技術について知見を共有し、関連する機関等と緊密に連携していく予定です。

「NGFS」への参加について

▼日本銀行は、二〇一九年十一月に「NGFS(Network for Greening the Financial System)」のメンバーとなりました。NGFSは気候変動リスクへの対応について、メンバー間で経験を共有し、検討することを目的とした、中央銀行・金融監督当局のネットワークです。

日本銀行では、本ネットワークへの参加を通じて、気候変動リスクに対する理解を高め、国際的な議論へ参画していきま

す。

ファイナンス・ワークショップを開催

▼金融研究所では、二〇一九年十一月二十八日に、「ビッグデータ・AIを活用したリスク計



開会挨拶を行う関根金融研究所長(左)と基調講演を行う大橋和彦教授(右)

測・分析」と題するファイナンス・ワークショップを開催しました。

▼六回目の開催となる今回のワークショップには、ファイナンス論に詳しい研究者・実務家のほか、日本銀行関係者を含め約七〇名が参加しました。基調講演に続いて、金融研究所のスタッフにより、三本の研究論文が報告されました。

▼一橋大学の橋和彦教授による基調講演では、ビッグデータとAIに関連するファイナンス研究について、最近の事例を踏まえながら、新しいデータ、新



職員による研究報告の様子

しい手法、新しい課題という三つの切り口から、論点整理がなされました。

▼金融研究所のスタッフが行った一本目の報告では、解釈可能な深層学習モデルを株価収益率ボラティリティ（変動性）予測に応用し、その予測精度を伝統的なモデルと比較した研究が発表されました。

▼同一本目の報告では、不確実性やリスク回避の代理変数とし

て注目を集めている分散リスク・プレミアムと将来株価収益率の関係を実証・理論の両面で分析した研究が発表されました。

▼最後の報告では、企業の倒産予測を対象として、機械学習と人間の予測精度が相違する要因を、膨大な個社データの分析を通じて考察した研究が発表されました。

▼各研究報告の後には、参加者からさまざまなコメントや質問が寄せられ、白熱した議論が繰り広げられました。

▼当日の議事要旨および基調講演は、金融研究所ホームページに掲載しておりますのでぜひご覧ください。



第二一回情報セキュリティ・シンポジウムを開催

▼金融研究所情報技術研究センター（CITECS）では、二〇一九年十二月九日に、「暗号資産のセキュリティ」をテーマとする第二一回情報セキュリティ・シンポジウムを開催しま

した。参加者は、情報セキュリティ技術に関わる金融機関関係者や大学などの研究者、暗号資産（注）に関するサービスマスク提供する企業の実務者など、約九〇名に上りました。講演では、暗号資産を構成する技術やそれらのセキュリティに関する最新の研究動向が紹介されました。パネル・ディスカッションでは、暗号資産のセキュリティに関する学術的な研究成果を実務へ活用していく上での課題や対応のあり方について、四名の外部の

有識者による活発な議論が交わされました。

▼近年、金融サービスにおいては、暗号技術や情報セキュリティ技術が果たす役割が一段と大きくなっています。情報技術研究センターでは、金融業界が情報化社会において直面する新たな課題に適切に対処していくように、今後さまざまな取り組みを行ってまいります。

（注）暗号資産とは、インターネット上で電子的にやりとりできる財産的価値であり、法定通貨（建て）ではないものです。代表的な暗号資産として、ビットコインやイーサリアムがあります。

「第一五回 日銀グランプリ」キャンペーンからの提言」の決勝大会を開催

▼大学生を主な対象とする金融・経済分野の小論文・プレゼンテーションのコンテスト「第一五回 日銀グランプリ」キャンペーンからの提言」に、今回は全国各地の四二校から一〇四編の論文が寄せられ、一次審査を通過した五チームにより



会場の様子（撮影：野瀬勝一）

編集後記

■今号が発刊される3月下旬といえば、季節は春。学校は春休みに入り、人も動植物も活動が盛んになり始めます。春という言葉から、皆さまは何を連想されますか。私がまず思い浮かぶのは、正月を新春というように、「物事の始まり」です。子供のころにスペイン語、大学生の時にフランス語を少々勉強しましたが、春はそれぞれプリマベラ (Primavera)、プランタン (Printemps)。ともに、接頭語のプリ (Pri) は第一を意味します。次に、厳しく辛い冬の次に来ることから、「抑圧からの解放、自由の到来」の代名詞でもあります。「ようやくわが家にも春がきた」と喜ばれますし、世界的には「ブラハの春」などがあります。他にも色々ありますが、今回の対談、インタビュー、そして地域の底力は、それぞれ創造力、大きな力に立ち向かう人間力、自然災害からの復興力と、まさに春を象徴する内容だと思えます。まもなく新年度が始まりますが、本誌の記事が少しでも皆さまのやる気や勇気、そして力添えとなれば幸いです。(中川)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。
(https://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<https://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2020年春号
編集・発行人 中川 忍
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-2405

デザイン 株式会社市川事務所
印刷 文唱堂印刷株式会社
禁無断転載



決勝進出5チームと審査員の皆さん (撮影：野瀬勝一)

二〇一九年十一月二十三日に決勝大会が開催されました。

▼決勝大会では、橋本圭一郎氏（経済同友会副代表幹事・専務理事）、桜井恵理子氏（ダウ・東レ株式会社代表取締役会長・CEO）の他、日本銀行の若田部昌澄副総裁（審査員長）、わかたべまさあき原田泰・布野幸利両政策委員会審議委員の五名の審査員を前に、各チームとも堂々とプレゼンテーションと質疑応答を行いました。

▼最優秀賞には、東京経済大学経済学部チームの「大学の大学生による小学生のための学童保育」が選ばれました。この他、

優秀賞に学習院大学経済学部チーム・東京理科大学経営学部チーム、敢闘賞に京都大学経済学部チーム・日本大学経済学部チームが選出されました。

▼日本銀行ホームページでは、決勝参加チームの作品全文と審



査員講評および奨励賞論文の要旨、決勝大会の様相を収録した動画を掲載しています。

新卒採用エントリーシートの募集開始

▼日本銀行は、三月一日から新卒採用（総合職、特定職、一般職）のエントリーシートの募集を開始しました。詳細は、日本銀行ホームページをご覧ください。

